

20073

日帰りセンター立ち上げと今後の課題

¹おもと会 大浜第一病院

高木 あい¹、与那覇 円¹

【背景】当院は、年間500～600例のCAGを施行している。従来、CAGは1泊2日の入院を必要としていたが、他の緊急入院患者と重なることで、ベッドコントロールが難しくなっていた。病状などによっては日帰りで検査を受けることができ、患者の負担や入院費用の軽減、また仕事や日常生活への支障を最小限にすることもできる。そこで、日帰り心臓カテーテル検査を検討し、センター立ち上げにまで至った。その過程と今後の課題を報告する。【目的】日帰りセンターの業務の整理、および他部門と連携をとり患者が安心・安楽に検査が行えるよう支援する。【方法】日帰りセンター立ち上げのためのリーダー看護師を選出し、他病院の見学を行い、検討会を開催した。【結果】多職種と連携をとり一日の流れ、マニュアル、患者用パンフレットを作成した。実際に施行し、患者からの意見も取り入れて修正を重ねた。誰が担当しても出来るようにチェックリストを作成。止血バンドの時間短縮も同時に検討し、1時間の短縮が可能になった。しかし、抗血小板薬を内服中の患者の場合、止血時間は延長する。また現在、経時的看護記録を行っているが、記録には時間を要している。【結論】マニュアルやパンフレット、チェックリストを作成し、多職種の協力体制により業務がスムーズになった。看護記録に関しては簡便にできるようにテンプレート入力に向けて検討中である。抗血小板薬内服中の患者の止血時間短縮に向けて今後取り組んでいきたい。